主要事業評価シート(第1次実施計画/H29・30・R1年度)

① 基本事項	計画コード	事業名		部名	産業建設部
	17033	みえ森と緑の県民税市町交付金事業		課名	産業振興課 森林林業G
	施策の大綱	01:快適さを支える生活基盤の向上		財務科目	01:一般会計
	基本施策	08:自然との共生			06:農林水産業費
	施策の方向	02:森林・里山・農地の保全			01:農林水産業費
戦略プロジェクト	04:「ジモトココロ」プロジェクト		06:林業振興費		
事業予定期間	H 26 ~ H 30 年度	主な根拠法令要綱等		みえ森と緑の県民税市町交付金事業実施要領	

② 目的・概要	対象	市民、市内工場・事業所	
	目的	「みえ森と緑の県民税」の市町交付金を受け、「みえ森と緑の県民税」の導入の趣旨である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を行うことを目的とする。	
概要	「みえ森と緑の県民税」の市町交付金を受け、「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を実現するために、「みえ森と緑の県民税市町交付金活用計画」に基づき、「里山・竹林生活環境保全支援事業」、「安全な通学路整備事業」、「森と木材のふれあい事業」、「緑あふれるまちづくり支援事業」、「鈴鹿川等源流域再生事業」を行う。		

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	
③ 事業の計画・実績	年度計画	<ul style="list-style-type: none"> ○里山・竹林生活環境保全支援事業 3団体 ○安全な通学路整備事業 2箇所 ○森と木材のふれあい事業 <ul style="list-style-type: none"> ・森の講座の開催 1回 ・木育教室の開催 3回 ・森の学校屋外編 2回 ・森の学校屋内編 市内小学校 ○緑あふれるまちづくり支援事業 8団体 ○鈴鹿川等源流域再生事業 <ul style="list-style-type: none"> ・環境林整備 25ha ・木質バイオマス利用促進 900m³ 	<ul style="list-style-type: none"> ○里山・竹林生活環境保全支援事業 3団体 ○安全な通学路整備事業 2箇所 ○森と木材のふれあい事業 <ul style="list-style-type: none"> ・森の講座の開催 1回 ・木育教室の開催 3回 ・森の学校屋外編 2回 ・森の学校屋内編 市内小学校 ○緑あふれるまちづくり支援事業 8団体 ○鈴鹿川等源流域再生事業 <ul style="list-style-type: none"> ・環境林整備 15ha ・会故の森整備 8ha ・木質バイオマス利用促進 900m³ 		
	年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ○里山・竹林生活環境保全支援 5団体 ○安全な通学路整備事業 1箇所 ○森と木材のふれあい事業 <ul style="list-style-type: none"> ・森の講座、木育教室の開催 4回 ・森の学校の開催 6回 ○緑あふれるまちづくり活動支援 1団体 ○鈴鹿川等源流域再生事業 <ul style="list-style-type: none"> ・環境林整備 117.16ha ・木質バイオマス利用促進 947.42m³ 	<ul style="list-style-type: none"> ○里山・竹林生活環境保全支援 3団体 ○安全な通学路整備事業 1箇所 ○森と木材のふれあい事業 <ul style="list-style-type: none"> ・森の講座、木育教室の開催 4回 ・森の学校の開催 6回 ○緑あふれるまちづくり活動支援 1団体 ○鈴鹿川等源流域再生事業 <ul style="list-style-type: none"> ・環境林整備 45.29ha ・木質バイオマス利用促進 474.59m³ 		
事業費	計画額	事業費	17,500千円	17,500千円	
		国庫支出金			
		県支出金	17,000千円	17,000千円	
		地方債			
		その他			
	予算額	事業費	18,913千円	16,402千円	
		国庫支出金			
		県支出金	17,099千円	16,317千円	
		地方債			
		その他	1,710千円		
	決算額	事業費 ①	18,833千円	16,400千円	
		国庫支出金			
		県支出金	17,099千円	16,371千円	
		地方債			
		その他	1,710千円		
人件費	一般職員	3,840千円	3,892千円		
	所要人員	0.50	0.50		
	臨時職員等	0千円	0千円		
	総人件費 ②	3,840千円	3,892千円		
	総コスト(①+②)	22,673千円	20,292千円		
受益者負担率		0.0%	0.0%		

				平成29年度	平成30年度	令和元年度
④ 指標	①	名称	里山・竹林保全活動実施団体数	計画値	11	14
			里山・竹林整備を実施する森林保全団体等の数(累計)	実績値	12	12
				単位	団体	団体
	②	名称	森と木材のふれあい事業参加人数	計画値	750	750
			森の講座、森の学校屋内外編、木育教室の延べ参加人数	実績値	429	379
				単位	人	人
	③	名称	緑化活動実施団体、工場・事業所等の数	計画値	8	8
			緑化活動を実施する地域まちづくり協議会や工場・事業所等の数	実績値	1	1
				単位	団体・社	団体・社

⑤ 事業の 改善 行動	前回評価	【前回評価の対応方針の概要を記入】 「災害に強い森林づくり」を進めるため、森林の持つ水源かん養や土砂災害防止等の公益的機能の向上を図るための間伐を推進するとともに、「市民全体で森林を支える社会づくり」を推進するため、市広報や市ホームページの掲載、イベント等を通じて市民の森林や木材に対する意識や関心を高めていく。
	改善行動	【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】 「みえ森と緑の県民税市町交付金活用計画」に基づき、実施した事業については、市ホームページに掲載するとともに、事業実施箇所には「みえ森と緑の県民税」を活用し実施したことを市民に伝えるため標柱を建て周知した。 また、市民に森林整備の必要性や木材利用の意義を伝えるため、イベント時には県民税PR用パンフレットを配布したり、新聞紙面へ掲載した。また、森の学校屋内編として市内の小学校において森林の大切さを伝えるDVDを児童に鑑賞してもらった。

		評価	(判定)
⑥ 事業の 評価	活動	【計画どおりに実施できたか】 「みえ森と緑の県民税市町交付金活用計画」に基づき、税導入の主旨である「災害に強い森林づくり」では、引き続き鈴鹿川等源流域再生事業として環境林の間伐や木質バイオマスの利用を促進するために林業事業体に対し、木材の搬出を支援した。また、「市民全体で森林を支える社会づくり」では、引き続き里山・竹林生活環境保全支援事業など3事業に取り組んだ。さらに、市民の森林や木材に関心を高めるため、重点的に広報活動に取り組むとともに、イベント時にはアンケート調査を実施し市民の森林に対する意識の把握に努めた。	A 計画どおり実施できた
	成果	【成果は順調に上がったか】 「みえ森と緑の県民税市町交付金活用計画」に基づき、市民全体で森林を支える社会づくりを目指し、市民が森林や木材と触れ合う機会を創出し提供してきたが、里山・竹林を整備する団体や緑化活動を実施する団体を増やせず、森林や木材と触れ合うイベントの参加者数も昨年度に比べ減少した。 一方、環境林の間伐は前年度と比べ事業費はほぼ同額であったが、森林の状況から間伐のヘクタール当たりの単価が高くなり事業量は減少した。	B まずまず成果を得た

⑦ 今後の 対応 方針	課題	【課題は何か】 税導入の主旨である「災害に強い森林づくり」は県が主体となり、「県民全体で森林を支える社会づくり」は県と市町が主体となり、「森を育む人づくり」や「地域の身近な水や緑の環境づくり」を行ってきた。税導入以前に比べ、森林環境教育や木育の輪が広がるとともに、森林や木に触れ合う機会が増加した。 一方税導入の主旨が市民に十分浸透したとは言い難いと考ええる。	今後の 方向性 ☐ 拡大 ☒ 現状維持 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☐ その他 【その他の場合、その内容を記載】
	対応	【課題に対し、どのように対応するか】 市民に税導入の主旨を浸透させるために、木を使うことが森林の整備に繋がるといった「緑の循環」や森と海は繋がっているという大きな視点の理解を深めるため、さらなる市広報や市ホームページなど様々な情報媒体を通じて啓発するとともに、税事業を通じてさらに森林や木材との触れ合う機会を創出することで森林や木材利用に対する市民の意識醸成を図っていく。さらに、森・川・海のつながりを意識した森林や緑、水辺環境を守る活動を支援する。	
	効果	【対応することで、どのような効果が期待できるか】 森林や木材について、学び・ふれあう機会を提供することで森と市民との関係が深まる。また、森林や緑と親しむ機会を提供することで身近な緑や水辺環境と市民との関係が深まる。	
対応時期		令和元年度	

【1次評価者】	産業建設部 産業振興課 森林林業グループリーダー 村田 博
【最終評価者】	産業建設部 産業振興課長 富田 真左哉

(参考:前期基本計画期間(H29-R3)における評価履歴)

		H29	H30	R1	R2	R3
判定	活動	A	A			
	成果	B	B			